

2013

防寒用車椅子ウェア

Warm Wear on Wheelchair in Winter

AD16 小林 日向子
指導教員 杉島 一男
竹内 明

1. 研究目的

私の祖父は足が悪く、その上病気で歩行が困難になったため殆ど外出しなくなってしまった。

また寒い時期には、厚着やひざかけで出かける車椅子の人をよく見かけ、車椅子に適した寒さ対策のないことが気になった。

そこで私は、そのような歩行に難がある人でも、冬場に快適でおしゃれな外出ができる用具を研究目的に設定する。

2. 調査と分析

まず最初に老人ホームに出かけ、入居者や職員の方から話を聞いた。入居者の方からは、「トイレなど、外出には不安がある」「車椅子姿で出かけるのが恥ずかしい」など、職員の方からは、「もっと積極的に外出をしてほしい」「車椅子の人は寒そう」などの声を聞かせてもらった。また、冬場の外出時には寒さ対策としてひざかけを使用することが多いと聞いたが、車輪に挟まるなどのトラブルもあるということだった。

自分で車椅子に乗って体感してみたが、乗っているときは確かに寒く、ひざかけだけでは対処できないと思った。

車椅子の防寒用具はいくつかの商品があるが、とてもおしゃれなものとは言えず、もっと外出を楽しめるものにする必要があると感じた。

3. コンセプトの立案

車椅子で手軽に外出できる防寒ウェア

- ・着脱を簡単にする
- ・手入れをやすくする
- ・おしゃれにまとえる

4. デザイン展開

・使用者の着脱しやすさのため上掛け部分だけで下半身を覆うかたちを考えていたが、その状態では開きにくいいため、上掛けと足を包むポケットを分離させた。どちらも大きく開くようにデザインし、暖かさと着脱の簡単さをクリアした。また上掛けの留め方を決定するために、ジッパー、マジックテープ、ボタンの三種の試作を作り、自分で使う場合も介助される場合も適したものとしてジッパーを採用した。車椅子との着脱は、横面の

マジックテープだけで手軽に行えるようにした。

・手入れがしにくいのではという指摘を受け、汚れやすい足ポケットを取り外して別途に洗えるようにした。

・表地の素材には手触りのよさと温かみを感じるフェルト生地を使用し、色は落ち着いた暖色系のブラウンを用いた。また着崩れないようひざかけカバーを独立させ、上掛け部分のすそにマジックテープをとりつけ、スマートなシルエットを表した。

5. 完成図



6. 結論

暖かさでは申し分なく、足ポケットの調整は必要だが、寒さ対策という点は達成できたと考える。

一方で着用方法について調査不十分な部分があり、車椅子に固定するベルトをつける必要がある。また素材に関しても、汚れやすい部分は素材を変えるなどの改良が必要だと感じた。

かたちは美しくまとめることが出来、多くの好評を受けた。その際改めてこの製品の必要性を感じ、また未熟な点がありながらもこの作品が正しい方向性で作成することが出来たと確信できた。

7. 参考文献

介護用品・医療福祉機器の総合販売サイト シースターメディカルマーケット
<http://www.sea-star.jp/>